

令和5年度旭川未来会議2030 ものづくり分野 第4回分野別会議 会議録

1 開催日時 令和5年9月26日（火） 午後6時から午後7時30分まで

2 開催場所 デザインギャラリー（旭川市宮下通11丁目）

3 出席者（参加者） ※敬称略、五十音順

大柳 誠、岡崎 茜、蔵重 幸代、小沼 隆礼、佐藤 公哉、張江 幸智、
星野 智哉、松島 育子

4 出席者（市側）

（運営事務局）

産業振興課 住吉課長、茂木課長補佐、村田

（統括事務局）

広報広聴課 乙坂広聴係主査

5 会議の公開・非公開 公開

6 傍聴者 なし

7 意見交換

議題「『愛される食』について」

（進行役）

- ・ 10月24日に行われる報告会の資料（案）について説明
- ・ これまでの会議の中でみなさんからいただいた意見を入れている。意図と違う部分があれば教えてほしい。
- ・ 2030年の旭川のあるべき姿を考えたときに、どんな状態が理想かというと、「子どもたちに渡したい、誇れるまちにしたい」という思いがベース。
- ・ 愛される食とは何か。旭川ならではの食文化を守る、食を楽しむ・食に対する思い、おいしい食で人が集まり未来を切り拓くといったこと。
- ・ 旭川の強みは、環境の面では明瞭な四季があること、気候が食物にいい影響がある、水が豊富である、物流の拠点である、歩行者天国があることなど。
- ・ ヒト・コト・モノの面では、旭川らーめん、少量多品目の野菜生産、旭山動物園などの観光、旭川家具など。
- ・ 課題は、みんながそれぞれ活躍しているが大きな枠で見ると統一感がない、印象的なモノがわからない、情報発信が不足している、まちづくりの事業がバラバラ、おなかが満たされれば良

いという考え方で食を楽しめていないなど。

- ・ 統計データを見ると、地球温暖化、少子高齢化、人口減少で消費活動が減少、インターネットでモノが買える時代なのでその場所に行かなくてもすむ、物流の2024年問題など。

会議を通して出た意見

- ・ 買物公園で買物したくなるものが売っていないが、昔はにぎわっていたので、ポテンシャルは高い。
- ・ 高品質低価格の食材が当たり前になっている。
- ・ 生産者への利益を還元できていない。

旭川の未来を担う子どもたちに対して、今の旭川を動かしている私たちの旭川愛やアイディアを集めて、産学官金が連携することで、自分たちが誇れるにぎわいのあるまちにもう一度生まれ変われる。

食×食育×観光×情報発信×買物公園を掛け合わせた動き

買物公園のリデザイン → 世界の食が集まる歩行者天国へ

〈例〉

- ・ 食べマルシェの日常化で、旭川・日本・アジアの食が集まる。
- ・ エリアごとに食のカテゴリをまとめる
- ・ まち文化やバル文化を醸成
- ・ 重要なのは、トライ＆エラーで、何回もチャレンジしていくこと。
- ・ いきなり買物公園を世界の食のストリートに実現化するのは難しいので、明日からでもできるアイディアを実現化していく。
- ・ 旭川フード塾で地域の食材の食べ方、保存方法などを伝えていく。
- ・ 旭川地域の食に特化したグルメ番組
- ・ それを担う地域商社の役割
- ・ 市職員の休憩時間を増やして、外でご飯を食べることで経済活性化
- ・ 市民限定の駐車料金サービス
- ・ 1市8町の地域間のシャトルバスの運行
- ・ フードトラックで取れすぎた野菜、規格外野菜の販売
- ・ 少量多品目の食品残渣の飼料開発
- ・ 仮設ハウスを活用した売る場所づくり

(参加者)

- ・ 産学官金の金は何か。

(進行役)

- ・ 金融機関のこと。資金がないと、プロジェクトが始動しないので、金融機関も一緒に取り組んでいくということ。

(参加者)

- ・ 会議の経過の説明は工夫するといい。

(進行役)

- ・ これが本当に実現できたらいいまちになるのではないかというアイディアが詰め込まれている。

大テーマ「食×食育×観光×情報発信×買物公園」について

(参加者)

- ・ いいと思う。

(進行役)

- ・ 買物公園を作る歴史の中で、昔、歩行者天国にしようという動きは、いろいろな人が苦労しながらできたこと。旭川はそういうことができるまちである。
- ・ 新しい場所を作るのではなく、今あるものを生かして、もう1回デザインしてみませんかという提案。
- ・ 食べマルシェが常にあるような場所、恒常的にまちがにぎわっているといい。

(参加者)

- ・ 酒造メーカーが集まっていることを、旭川の強みに追加してはどうか。
- ・ 最近、酒米を作っている農家も増加している。

(参加者)

- ・ 「未来会議を通して得た気づき」の中に「廃業していく生産者が急増」と書かれているが、野菜を育てる生産者が減っているというのが現状。お米を作りながら野菜を生産している人が野菜の生産を減らしていくと、野菜の価格が高騰し、品目が減少する。

(参加者)

- ・ 人口減少と高齢化で、胃袋の数と容積が減っている。
- ・ 若い世代は食へのこだわりがなくなっている。

(進行役)

- ・ 同じおいしい肉でも提供するお店によって味が変わるということも伝えていきたい。

(進行役)

- ・ 就農を目指す人を育てられたらいい。
- ・ 大学で農業を学んで、一度サラリーマンになって、また移住して農家を目指す人もいる。実家を継ぐ人もいる。
- ・ 就農を目指しても、どうしたらいいか分からぬといいう人もいる。

(参加者)

- ・ 旭川市でも新規就農の支援をやっているが、そこまで手厚くない。鷹栖町だと外から来る人もいる。旭川市ももう少し手厚くなるといい。

(事務局)

- ・ 市としては、就農しようとしている人の生活を壊さないために、しっかりと計画性など

を慎重に対応している。

(進行役)

- ・ このほか別のアイディアが何かあるか。
- ・ 買物公園を起点にするという部分について、世界の食が集まるとするか、日本の食が集まるとするか。せっかくなら世界一のストリートとしてもいいかと思う。

(参加者)

- ・ 昔は日本初だった。今回は日本一とするのもいい。

(進行役)

- ・ 例えばハラール料理などの用意があれば、海外からの観光客につながる。
- ・ 外部の人が旭川の食に対する魅力のリサーチをした。機械でできるものはお金を出せば買えるが、地理的条件を活用したモノは現地でしか味わえない。

(参加者)

- ・ 場所は買物公園がキーになるのであれば、「食×食育×観光×情報発信×買物公園」を「食×食育×観光×情報発信=買物公園」とするのはどうか。

(参加者)

- ・かけ合わせることでの相乗効果という意味ではこのままでもいいと思う。

(参加者)

- ・ 収穫後すぐ食べた方が良い食材、寝かした方が美味しい食材などそれぞれ特徴がある。

(事務局)

- ・ 今回のテーマを「愛される食」としたのは、みんなが旭川の食を自慢できるという機会が増えたらというところからである。

(参加者)

- ・若い時はお金がないから食費をいかに抑えるか考えていたが、年齢が高くなるにつれ、やつと食にかけるお金も使えるようになってきた。

(進行役)

- ・昔、フード トラックがあった。今の時代に合っているのではないだろうか。常に新鮮な野菜を収穫して、販売できる。
- ・ 収穫の仕方なども伝えたい。

(参加者)

- ・ 生産者さんは収穫するのが大変。収穫してくれるなら、協力してくれるのでは。

(進行役)

- ・ スモールアイディアの部分は、いろいろなことを買物公園とつなげて食のストリートとなればいい。フィールの地下にある共有キッチンでフード塾的なこともできるし、ガーデンセンターのキッチンを借りて料理教室などできる。
- ・ 旬の食材を使った料理教室など、小さなことをたくさんやって取組を広げていくのもいい。
- ・ 例えば、下國シェフのレシピを公開してもらって、いろいろなお店でその料理が食べられる

といい。

(参加者)

- ・ 問題点について、東京と旭川のスーパーの価格比較を説明するといい。

(進行役)

- ・ 東京と比べて旭川は安いという根拠はあるのか。

(参加者)

- ・ 国内でも、北海道内と比べても旭川市内近郊のスーパーは安い傾向である。

(進行役)

- ・ 東京と比較したら、物価の違いとかもあるので、道内と比較しても安いということであればさらに安さが引き立ちそう。

(事務局)

- ・ 報告会の出欠について
- ・ 発表方法、発表者について、報告会までに調整して決めるので御協力をお願いする。